

会 議 録

令和7年2月25日作成

会議名	第4回木更津市観光振興計画推進委員会		
開催日	令和7年2月21日(金)	場所	木更津市役所駅前庁舎 8階 会議室1
時 間	午前10時00分から午前11時20分まで		
出席者	委員 五十嵐潤子 神谷啓子 葛丈夫 石原敬司 満間信樹 沼野丈幸 阿部厚司 市側 大岩房之 桑田智恵 齋藤あい子 前田健介 渡邊雅彦 柴田航介 椎熊亜美 宮崎恒輝 JTB 株式会社 千葉支店		
欠席者	委員 坂口充男		
議 題	(1)第3次木更津市観光振興計画(素案)について		
公開・非 公開の別	公 開	非公開理由	—
傍聴人	0人		
概 要	下記のとおり		

(概要)

○事務局(桑田)

それではお待たせいたしました。定刻となりましたので始めさせていただきます。

本日はお忙しい中ご出席いただき誠にありがとうございます。

本日、進行を務めさせていただきます、経済部観光振興課 桑田でございます。

よろしくお願いいたします。

まず始めに、お手元の資料の確認をさせていただきます。

①第4回木更津市観光振興計画推進委員会 次第

②第3次木更津市観光振興計画(素案)

③資料1 第3回委員会における意見及び対応

④資料2 第3回委員会における意見及び対応(抜粋)

⑤資料3 KGI 算出根拠

⑥資料4 今後のスケジュールについて

⑦資料5 第3次木更津市観光振興計画施策推進シート(例)

を配布させていただいておりますが、資料の不足はございませんでしょうか。

それでは議題に入る前に、事務局から3点ご連絡いたします。

1点目、本計画の業務受託者である株式会社 JTБ 千葉支店に出席いただいておりますことを報告させていただきます。

2点目、本会議につきましては、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例第3条に基づき、公開することとなっております。本日の傍聴人はおりません。

3点目、会議録作成のため、会議内容を録音させていただきますので、予めご了承ください。

なお、ご発言の際は、お手元のマイクのボタンを押し、赤色のライトが点灯しましたらご発言いただき、発言後はもう一度ボタンを押して、マイクをオフにさせていただきますようお願いいたします。

また、文字起こしを自動で行うマイクシステムを導入しておりますことから、恐れ入りますが、ご発言の前にお名前を仰ってくださいようお願い申し上げます。

それでは、只今より、第4回木更津市観光振興計画推進委員会を開催いたします。

初めに、五十嵐委員長よりご挨拶をいただきたいと思います。

五十嵐委員長よろしくお願いいたします。

○五十嵐委員長

皆さんおはようございます。

寒い中お集まりいただきましてありがとうございます。

委員長を務めております明海大学の五十嵐でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

本日審議いただく素案につきましては、1月に書面開催しました第3回委員会での皆

様からのご意見を踏まえたものとなります。ご意見誠にありがとうございました。

委員の皆さんにおかれましては、忌憚のないご意見等を賜りますようお願い申し上げます。まして、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局(桑田)

五十嵐委員長、ありがとうございました。

それでは早速議事に入りたいと思います。

本委員会の議事進行は附属機関設置条例第 6 条により、委員長が務めることになっておりますので、五十嵐委員長、議事進行の程よろしくお願いいたします。

○五十嵐委員長

それでは、議長を務めさせていただきます。

円滑な議事進行にご協力をよろしくお願いいたします。

まず、本日の出席委員数は、7名でございます。

よって、附属機関設置条例第6条第2項の規定により、過半数の出席をいただいておりますので本委員会は成立いたします。

それでは、議題1 第3次木更津市観光振興計画(素案)について を議題に供します。

事務局の方から説明をお願いいたします。

○事務局(柴田)

観光振興課の柴田と申します。

まず素案の説明の前に、書面開催いたしました第3回委員会において、委員の皆様からいただきました意見及びその対応についてご説明させていただきます。

皆様からいただきました全てのご意見と、それに対する対応を資料1にまとめております。

皆様からは幅広くご意見をいただきまして、中には行政全般に関わるご意見も頂戴

いたしましたので、この場では直接的に次期観光振興計画に関係する部分を抜粋してご説明させていただきます。

資料1を抜粋したものが資料2となりますので、資料2をご覧ください。

上から順番に説明して参ります。

まず、全体に関わる意見というところで、(1)スローガンに呼応した策の追加についての部分ですが、こちらはオーガニックツーリズムの推進というスローガンを掲げた中で、例えば、市民参加型の地域の、魅力再発見プログラムなど、さらにもう1歩踏み込んだ取り組みをしてはいかがかというご提案をいただきました。こちらについては、後ほどご紹介もしますが、本計画とは別途、進捗管理を行うための施策推進シートというものを作成するのですが、そこにアクションプランのような具体的な取り組みや指標を記載し、PDCAをまわしていく予定ですので、それぞれの施策がオーガニックツーリズムの推進を念頭に置いた具体的な取り組みとなるように、そちらの方で整理をさせていただこうと思っております。

次に個別施策の数字について、いくつかの施策で5年間の目標値が低すぎるのではないかというご意見をいただきました。こちらについては、第3次観光振興計画を推進する中で模索して参りますが、計画に盛り込んだとしても、予算の担保が必ずしもあるわけではないというところから、大幅な増加とすることが難しいのが現状でありまして、こちらは毎年度行う振り返りの際に、必要に応じて目標を修正していくこととさせていただきます。

次に(4)ですが、広域連携の強化について、日常的にもっと広域連携に取り組むのはいかがかというご意見をいただきました。

こちらは第3次観光振興計画を推進する中で模索して参りますが、基本的に広域的な連携は県の政策に任せているのが現状でございまして、また現実的には各市町村の予算配分等の検討も必要であることから、木更津市が旗振りしていくことは、ハードルが高いというところが現状でございます。

続きまして、1つ下のご意見についてですが、施策をどこまで具体化できるかというご意見をいただきました。こちら先ほど説明したように、具体的な取り組みについて

は施策推進シートに記載をしまして、PDCAをまわしていく予定でございます。

次に第1章に進んでいきます。

まず、KGI の算出根拠についてご質問をいただきました。素案では2ページに記載しておりますが、より詳細を示す別添資料に基づきご説明させていただきます。

初めに入込客数ですが、木更津市基本計画の方でもKPIを定めておりまして、そちらの伸び率と同様の伸び率を用いて算出いたしました。具体的には令和5年度の実績値をもとに毎年約3%ずつの増としております。

次に宿泊者数ですが、第2次計画でのKGIの伸び率を用いて算出しており、具体的には5年間で8万人増ということで定めておりましたので、本計画でも令和5年度を基準に8万人増を目指しております。

次に観光消費額についてですが、DMOが毎年実施しているKPI測定調査と同じ手法を用いて算出しております。

資料の下段「観光消費額 計算式」をご覧ください。

計算表の中で大きく分けてAとBに分かれておりますが、Aが宿泊以外の消費額、Bが宿泊に係る消費額となっております。

Aについては、費目ごとに行が分かれておりますが、費目ごとの平均消費単価に入込客数を乗じた数値に、利用率を乗じることにより消費額を算出しております。

表の作りとして少しわかりにくいかなと思いますので、令和5年度の飲食を例に出してご説明します。利用率、一人当たり平均単価、また、上のKGIの表に記載の入込客数のR5の数値を使用しますが、順番が前後してしましますが、平均単価の5,850円×入込の1,610万人×利用率の89.5%=842億9600万円という形で算出をしております。

令和6年度以降の数値についても同様に計算しますが、これに加えて物価上昇率も考慮しています。

物価上昇率については、KPI調査の委託事業者にもご助言をいただき、5年間で1.7%上昇するということで設定を行い、それぞれの年度に加味しております。

Bについては、令和5年度の宿泊平均単価に、それぞれの年度の宿泊者数を乗じて算

出しており、AとBの合計により、各年度の消費額としております。

続きまして、次の意見です。

資料2に戻りますが、各KGIの水準を目標値まで上げると、市内にどのような効果が見込めるのか、また、入込客数について、現在、アウトレット来訪客の回遊策や整理等について記載がないため、床面客数を増やすとその影響がさらに悪化されることが懸念されるというご意見をいただきました。

こちらについては、中心市街地などへの回遊性というのが必須項目でありますので、本計画の中に回遊性の向上を図る施策は、いくつか展開する計画となっております。42ページをはじめとしたところに記載がございますので、後程ご確認ください。

そして、観光消費額のところで、平均消費額をどこまで上げるのか、また具体的に、体験プログラムや飲食代、物品購入代等の消費額を上げることで、観光消費額を上げることが想定しているのか、またそれによる市内の効果はということに関しては、こちらについても、どの項目の消費額を上げていくかなどについては今後の施策推進シートを作成する中で、整理していこうと思っております。

次の意見にいきます。

KGIの入込客数の中に宿泊者数は、数字として含まれているのかというご質問ですが、こちらについては別々で集計しているものですので、入込客数に宿泊者数は含まれておりません。

次の意見にいきます。

KGIの目標値とKPIの施策項目との関係性が明確になるともっと良くなるのではないかと、また、どのKPIがどのKGIに一番影響を与えているのかということを確認することで、実施者のベクトル合わせができるのではというご意見をいただきました。こちらについては、KGIとKPIの関係性について、第5章の個別施策の部分への記載を検討しましたが、表記が複雑になってしまって、また相互作用も大きいことから、逆にわかりにくくなってしまうことが懸念されましたので今回は記載を見送らせていただいております。

また次の観光消費額の算出根拠、暫定目標値を入れることで、軌道修正がしやすいの

ではないかというご意見に対しましては、観光消費額の算出方法、素案の2ページの方で、言葉で記載をしております。

先ほど説明したその細かい計算方法までは記載していないですけれども、事務局の方ではこちらをしっかり把握して、年次ごとの軌道修正・評価をできるような体制を整えております。

次は第2章に移って参ります。

17 ページのところで、訪日外国人旅行者の記述箇所、最新の動向、最新の数字を記載するかというご意見に対しましては、こちらは県の数値など、他のグラフ等の記載との整合性を図るため、今回は記載を見送らせていただきます。

次に46ページ第5章に移って参りますが、JNTOや千葉国際コンベンションビューロー等のというところは、こちらについてはご指摘のとおりですので言葉の修正をしております。

また、補助制度の実施時期について、令和9年度になっていますが、もう少し前倒しで実施することはできないか、前倒しできるようであれば令和10年度からの件数について4件に上げることができるのではというご意見です。

こちらについては、この補助制度の財源については、県の宿泊税の交付金を充てることを想定しているため、前倒しは難しいということで認識しております。ただKPIについては、補助制度を導入した後、令和10年度から4件へ修正しております。

次の57ページのところですが、アクアライン周辺の環境整備、金田バスターミナルへの高速バスの乗り入れを増やす、路線バス・タクシーなど2次交通の乗り入れが増えないと、観光客にとっては魅力がない、また金田第1駐車場の供用は観光振興へ向けた施策なのかというご意見をいただきましたが、こちらについては、いただいたご意見を参考に再度検討した結果、施策自体の記載を送らせていただくことになりました。

以上で第3回委員会における意見とその対応についての説明は以上になります。

○事務局(前田)

続きまして、修正した素案についてのご説明をそのまま続けさせていただきます。観

光振興課の前田と申します。

はじめに素案策定の経過を説明いたします。

10月15日に書面で開催しました、第2回委員会において委員の皆様から、数多くの建設的なご意見をいただき、素案の構成や内容に大幅な修正を加える必要が生じたこと、また、時期を同じくして、これまでの計画が観光振興課において展開すべき施策のみで構成されていたのに対し、次期計画では、例えば、市の玄関口としての富士見通り歩道改修事業や道の駅施設改修事業など、観光振興に寄与する全庁的な事業や取組も計画に盛り込むこととしたことから、計画の策定スケジュールに遅延が生じたことにより、議会においての素案の説明は、12月議会ではなく、3月議会で行うことといたしました。

この大幅な変更に合わせて、1月に委員会を書面開催させていただき、変更した素案についてのご意見を委員の皆様よりいただいたことから、先ほどの説明のとおり、所要の修正を加えております。

以上が本日までの経過でございます。

それでは、第3回委員会以降の素案の修正点についてご説明いたします。

素案23ページ、第3章 施策の実施状況と観光の課題 1 第2次木更津市観光振興計画に掲げた施策の実施状況についてですが、第1回の委員会でも説明をさせていただいた、現計画の振り返りの部分ですが、具体的な実績や達成状況が分かりにくいなどのご意見をいただいていたため、第2回の委員会でお示した実績などを盛り込んだうえで、第5章で掲げる取組との整合性を図っております。

続きまして、32ページ、第4章 基本目標と施策の方向性 1 基本目標内の「本計画では～」以降、「オーガニックツーリズム」の定義を修正しております。

こちらにつきましては、前回お示しました素案では、「本市の豊かな自然環境、地元の有機農産物、歴史・文化などの多様な資源を活用し、地域の持続可能な発展と観光客の満足度の向上を図る観光スタイル」と定義していたところですが、サステナブルツーリズムとの違いが見えないとのご指摘をいただきましたことから、「地域の持続可能な発展」の部分で、「自然や地域文化とのつながりを重視した観光」といたしました。

これは、本市の「オーガニック」な考え方や取組に基づいて再検討し、地域とのつながりを重視したアプローチを行うことで、観光分野全体の持続可能性を目指すサステナブルツーリズムとの差別化を図りました。

次に、第5章 観光振興へ向けた施策の主な変更点をご説明いたします。36ページをご覧ください。

里山・里海の保全と活用 ④きさらづ CAMP ORGANIC FIELD in みたての活用について、こちらの指標は利用者数を置いておりましたが、きさらづ DMO と協議した結果、今後のみたて海岸の活用について、単純に利用者数の増加を図るのではなく、利用者の満足度向上を図っていく方針であることから、満足度測定の基準づくり及び満足度スコアを指標値とすることとしました。

続いて、37ページをご覧ください。

⑤地元産農林水産物の収穫体験等イベントの推進は、先ほどの「オーガニックツーリズム」の定義を見直したことにより、取組の趣旨を「観光誘客を図ることで地域の活性化につなげる」としていたところ、「収穫体験を行うことで、来訪した人々へ地域の文化や取組を知ってもらうとともに、地域の協力意識の向上を図る」と変更しております。

⑥グリーンツーリズムの推進は、同じく取組の趣旨を「地域経済の活性化を図る」としていたところ、「文化や自然環境など地域の魅力発信につなげる」と変更しました。

また、取組の指標について、観光農園の入園者数を新たに追加しております。

次に、38ページ ⑨木更津港まつりの取組をご覧ください。指標としてごみのリサイクル率を掲げておりますが、所管課である資源循環推進課と協議し、より現実的な数値目標に修正しております。

続きまして、39ページ ⑫コンサート・アートイベントの開催、⑬郷土の歴史・文化・芸術に関する情報発信についてですが、前回の素案では両取組とも来場者数などの目標値は据え置きでしたが、所管課との協議の結果、増加させる指標へと変更となっております。また、コンサート・アートイベント来場者数につきましては、令和10年度より供用開始予定の吾妻文化芸術施設の来場者を見込み、増加幅が大きくなっております。

⑭広域連携による観光誘客の促進の取組については、広域連携の施策で別だして

おりましたが、こちらの施策の一環として整理することといたしました。

続きまして、41ページをご覧ください。

⑱道の駅「木更津 うまくたの里」の拡張整備の取組ですが、施設の拡張整備のスケジュールに変更が生じたことにより、指標も合わせて修正しております。

42ページをご覧ください。

⑲観光デジタルマップ「木更津おでかけナビ」の掲載内容充実の取組については、指標にサイトのアクセス数を追加しております。

43ページの㉔富士見通りの再整備については、アーケード撤去が令和6年度中に終了予定でしたが、工事スケジュールに変更が生じたため、記載も変更しております。

続いて、45ページをご覧ください。

㉕関係団体と連携した誘致活動の実施の取組ですが、指標の国際会議の開催件数を令和7年度より3件以上としておりましたが、㉞MICE 誘致に係る補助制度の導入の取組で、新しい補助制度の運用開始を想定しているため、それによる誘致件数の増を見込み、4件以上に修正しております。

続きまして、49ページをご覧ください。

㉟情報発信の強化の取組については、新規の取組となりまして、主にインターチェンジ周辺の土地を活用した企業誘致と誘致した企業や既存の施設への情報発信拠点整備の働きかけを行っていく予定となっております。

次に、50ページ ㊱木更津 Quality の活用の取組については、市公認のブランドとして木更津 Quality 制度の整備とその活用方法の一つとして、EC サイトの検討を行う予定です。

また、㊲特産品の情報発信の取組では、農林水産課が認定している木更津市優良特産品もまた、市公認のブランドであることから、認知度向上を図るため所管課による情報発信を取組として追加しております。

これらの取組に合わせて、施策名を「木更津クオリティの推進」から「地域ブランディングの強化」に変更しております。

続いて、55ページをご覧ください。

施策(18)新たな交通インフラの活用については、新しい施策となりまして、○51 立地的特性を活かした海路・空路の開拓及び、○52 木更津飛行場の民間利用の取組を追加しております。

○51 の取組について、海路に関しては、羽田空港及び海ほたると連携してクルーズ船を活用した新たな魅力の創出を図ります。令和5年度・6年度と国の補助金を活用したクルーズツアーを催行したことに加え、事業者側からも今後の連携に向けて協議を継続していきたいとの申し出があったことにより、クルーズ船の定期運航も含め検討を行います。

空路については、ドローンタクシーのような新しい技術の活用について、調査・研究を行ってまいります。

○52 の取組については、陸上自衛隊木更津駐屯地内の滑走路の、民間事業者による活用の可能性について、事業者や防衛省と検討を行っていく予定です。

続きまして、58ページをご覧ください。

第6章 計画の推進体制 ④行政の役割のなかで、宿泊税について触れておりますが、前回の素案では「宿泊税の導入の検討」としておりましたが、1月23日に行われました、県の宿泊税における意見交換会で示された資料によると、本市への交付金の試算が約5700万円とのことでしたので、宿泊税の独自導入よりも先に、県の宿泊税の活用方法の検討をすべきと判断したことにより記載を変更しております。

また、3 施策の評価・効果検証のPDCAサイクルの図中、Checkに「第3次木更津市観光振興計画施策推進シート」を追記しました。本計画につきましては、アクションプランを作成しない想定で素案を作成しておりますが、取組の詳細や実績、年度目標などをまとめたシートを取組毎に作成し、こちらの委員会において毎年度振り返りを行うにあたり活用できればと考えております。

59ページ以降は資料編となりまして、木更津市観光振興計画推進委員会委員名簿のほか、3部会で行いました第3次木更津市観光振興計画策定に係る懇談会名簿及び用語集を整理いたしました。

計画案につきまして、私からの説明は以上でございます。

よろしくお願いいたします。

○五十嵐委員

事務局からの説明が終わりました。

この素案につきまして、皆様から質問意見等がございましたらよろしくお願いいたします。

○満間委員

事務局の皆様大変お疲れ様でした。

いろいろとお話をして、大幅な修正で大変だったと思います。

2つだけ、今から修正の話ではないので意見ですが、物価上昇率が5年間で 1.7%の算出だったとお伺いしました。つまりCAGRで言うと 0.28 とかそんなもんだと思います。

一方で、私も自分の会社の予算を立てていく、人件費を立てていくときに、最低賃金は上がっていく、社会保険料が上がっていく、人件費が上がる、資材費は上がっている。つまり、2%ぐらいは見ないと、現実的ではないと思っています。

今この内訳を見ると、全部計算できておりませんが、Aの方がおそらく 0.28。一方でBの方は、令和5年から令和6年が少し上がっていますが、それ以降はすべて、割り算すると、単価が、2万 8,466 円のままではないかと思います。これは現実的ではなくて、宿泊代は間違いなく上がっていきます。

例えばインフレ率を、年当たりで1.5%やるだけで、その3,000 億円のうち184億増えていくと思います。

何が言いたいかというと、5年間で 1.7%ですっていう記載をしておかないと、評価するときに物価上昇が2%で5年間あったとしたら、実は半分も数字稼いでいないという結論になるはずです。評価が間違っちゃうのが嫌だと思っています。

要は絶対他力の物価上昇だとか、三井アウトレットパークさんが新しいことをやって増えました。これは、計画と関係ないですよ。それが測定できないのが嫌だっていう

ことで、金額を変えてくださいとは申し上げませんが、5年間で 1.7%、CAGRで 0.28%ってこと書いておいた方が、5年間、5年先の方が評価しやすいのではないかと
思っています。

それから2つ目の話としては、資料5の推進シートですが、とてもすばらしい取り組み
だと思っているので、是非よろしくお願いします。

一方で、ここの満足度を80%に変えましたっていうお話で、これについて僕がどうこ
う言うつもりはないのですが、観光業ってホスピタリティとか東京オリンピック誘致の時
におもてなしとか言っちゃったので、おもてなしが全てみたいになっていますが、観光つ
て、国もそうですけど何かあるとこれ観光分野だよね、みたいなゆるい感じでできてしま
うんですけど、あくまで経済活動なので、満足度80%上がりました、だけどもお客さんは
半分以下でした、人手をかけました、だから成果は出ました。でも、それって、税金を投
入してその活動をして、その経済効果でよかったのでしょうか。というのは、別のファク
ターじゃないかなって僕は思っていて、こういうものは2軸にしといた方がいいのでは
ないかと思っています。

これを計画策定の経緯をご存じない方って、僕らも社員評価シートを書かせるわけ
ですけど、お客様満足度80%とかって言うてしまうと、それに集中してしまいます。

だけど、じゃあその人の稼働率ですよ。業務内容って良くなりましたかっていうと、
もう個別の人に当たっているから、その人はいいいけど、全体で見たときには、うまくいっ
てないっていうケースが出てきてしまいます。だから、その目標の立て方については今
回どうこうって話ではないのですが、やっぱり観光っていうのは経済活動だから観光消
費額っていうものに、KGIを入れたとするとそこに結びつくような、2軸の目標なり3軸
でもいいですが、そういう形にしていかないと、何かすごくゆるい形で、終わってしまう
かもしれないと思います。

僕はやっぱり民間企業なので、非常に数字にシビアで、社員と家族を預かっている以
上は、数字にはかなりシビアな方なので、これが行政に当てはまるかどうかは別ですけ
れど、ただ1ついえることは、やっぱり貴重な税金を扱っている以上はその投資回収はし
っかりするべきだろうなっていうのが、一般市民の視点での考え方でございます。

○五十嵐委員

満間委員ありがとうございました。

貴重なご意見でした。

特に修正を求めるというものではないという認識でよろしかったですか。

他に質疑ないようでしたら、今の満間委員の意見について、事務局からございますか。

○事務局(前田)

貴重なご意見ありがとうございました。

おっしゃる通り、税金を投入しておりますので、DMOの考え方ともすり合わせをしていく必要があるとは思っております。

確かに計画書中では、満足度スコアというところを出しているのですが、実際その振り返りシートなのかまた別の指標なのかというところで、売り上げを伸ばしていくことも図っていききたいなと思っておりますので、その辺は改めてDMOとも協議して、事務局でもいろいろ検討したいと思っております。よろしくお願いします。

○満間委員

満足度がいけないわけではないので、満足度上げてリピート率が上がるから、年々数字が上がってきますよねという、しっかりとその満足度だけに集中させないっていうところが、現場レベルでは大事なことじゃないかなと思っているということだけです。

○五十嵐委員

どうしても満足度に偏ってしまうと、それで何かやった気になってしまうっていうのは、現場でも現実感が非常にある内容かなと思いました。

あえてそこは厳しく結果を求めていくっていう姿勢が必要なのかなと思います。

他にご意見、質問いかがでしょうか。

○阿部委員

今日はありがとうございます。市民代表の阿部です。よろしくお願いします。

先ほどの満間様のお話もそうですが、経済波及効果じゃないですけど、日本の場合、円安の影響力がかなりあって、観光庁のデータなんかもたまに見るのですが、5年前と比べて確実に消費単価上がっているのだけど、よくよく見ると円安の度合い、円ドルレートの度合いがそのまま反映されているとか、結構見えないところの数字を先ほどあったように記載をしておくべき。現在の円ドルレートがどのぐらいとか、その辺の指標も入れておく方が、5年後の評価のときに判断がしやすいかなと思いました。

あとは、これも修正とかじゃなくて市民として、仕事柄観光関係もやっている中での気づきとお願いなのですが、やはり木更津の魅力は、成田空港の方面の仕事をしているので、同じような図式なのですが、空港と港ですね、あとは海と山。この要素があるというのが、成田空港が滑走路延長するにあたり、狙っているキーワードだったりします。

木更津の場合あるのがこの港ですね、成田の方にはないのですが、あまり大きいのがない。そういった意味では、羽田空港を意識すると、4つの要素がある木更津ってすごく魅力的だなと思っています。あとは市民として、せっかくこのような色々なことがあって、関わり方、地域事業者って言葉があって、観光業者とか他の事業者なのですが、僕の中では、他の事例を見る限りやっぱり、地域のガイド育成のようなもの、地域のことをよく知った人がガイドとして関わることによって、市への愛着、シビックプライドっていう大きい話までいかないんでしょうけど、市民としてはそういう関わり方ができるってことで市への愛着が生まれ、定住率云々まで繋がっていくのかな。観光の中で考えたときに、観光施策だけじゃなく、やはり市の色々な働き方改革で、例えば、兼業人材の発掘など県でもやっています。そこに向けたところからガイドをやってもらおう、ここは地域の事業者の兼業を認めるとか云々もあるかと思いますが、そういった流れであるとか、最終的には移住定住に繋げようというのが、行政的な視点では非常に大切かと思います。

そういったところへのアプローチなども、ちょっとコメントがあったりするといいのかな、要は市民が私事としてとらえてくれる機会にもなるのではないかなと感じたところ

です。全然まとまらない話なのですが、アウターとインナー、多分どちらかというアウター、よそからのっていう視点を観光なのではないのですが、インナー、地域住民ですね、こちらの視点なんかもあると、より良いものになるかなと感じました。

率直な感想で大変申し訳ないですが、感じたところです。

○五十嵐委員

阿部委員、ありがとうございました。

基本的には、完全に同意でございます、多分、36ページの②のところに里山里海の保全と活用のところでは、確かに造詣の深いガイドの育成というのは、私も要望していたことなので入っているのが非常に良かったなと思うのですが、一方では里山里海に限らず、オーガニックツーリズムという地域のいろんな観光資源を自らの土地意識の中で調整・高めながら誇りとして、いろんな方々に提供するということが、またプラスのサイクルになっていく絵をいずれ描けていくと良いのかなと思う。

そのきっかけとしてこの36ページの②があるっていうことは、1つ大きな要素になるかなとは思っていますので、そういう意味では、様々な市民参加の機会というのは、意識いただけるといいのかなと思いました。

阿部委員の、ご意見に対して事務局の方から何かございますでしょうか。

○事務局(大岩)

ご意見ありがとうございます。

まさにそこがやっぱり今、渡辺市長も気にかけていて、力を入れていくというところで、走り出しているところでございますので、記載は少ないですけども、振り返りシートの中などで、さらなるアップに繋がるような施策を展開していきながら、評価していけたら良いかなと考えております。ご意見どうもありがとうございます。

○阿部委員

追加でお伝えしました部分は、仰せつかっている範囲でございますので、可能な限り、

個人的にも協力などはできるかと思います。

自分だけじゃなく、例えばいろんな巻き込んで、仲間うちを連れて、ガイドとかはやらねばという使命感も含めて発言したつもりでございます。よろしくお願いします。

○五十嵐委員

こういう方々がたくさん出てくることが、これからの未来の木更津を作っていくのだなというふうにも実感できそうなコメントでしたね。ありがとうございます。

○石原委員

木更津商工会議所の石原でございます。

まず、かなり膨大な資料作っていただいてありがとうございます。

57ページ②の地元事業者のところ、まさに商工会議所という立場で、少し思ったことがあって、まさに自らの創意工夫及び自助努力をもとに、経営基盤の安定化人材育成、従業員の福利厚生等があるその中で、オーガニックなまちづくりと一緒に市として、事業者も発展して観光づくりをしようということが私は書かれているという認識をしております。

その下に、旅行者・訪問者を意識した質の高いサービスやコンテンツ商品の提供イベントなどを実施と書いてあるのですが、ここに関しては、例えば今地元商品を使っていますって旗とか出しているところがあると思うのですが、ああいったものの延長で、何か事業とかイベントとかを考えていらっしゃるようなイメージでしょうか。

それが1点と、やっぱり地元の事業者は、小規模企業者から中規模から大規模までいろいろありますが、小規模事業者様がやはり圧倒的に多く、小規模事業者様って経営が大変です。なので、端的に言いと、例えばこういう観光事業に特化した事業をやっていくので、こういう市のプランに合った計画を立ててくれたら助成しますとか、補助金出しますとか、市や県でやっている制度融資みたいな形で、観光事業とか、お客様のホスピタリティを高めるための設備投資とかの資金を借りたときに、利子補給とか利率を下げてくださいとか、地元の事業者様が取り組みやすいような、市も観光事業にも力入ってい

るんだけど、ぜひ地元の皆さんにも来ていただいた方に木更津市ってこのようにみんなおもてなししているんだよ、事業者としてこういうことやっているんだよ、というようなお力を貸してもらいたいというところも含めて、補助金なのか助成金なのか、その貸し付けがいいのかわからないですけど、今後そういった展望みたいなものってあったりするののか、あったりしたらうちとしては非常にももちろん、私たちが日々小規模事業者様のご支援をしている立場としては、やはり小規模事業者様のいわゆるヒトモノカネの部分っていうのは非常に相談が多いので、そういった部分がある程度基盤がしっかりしていないと、要は自分の事業がしっかりしていないのに、観光になかなか意識がいかないじゃないですか。

経営の基盤の部分も含めて、観光事業に取り組めるような、一緒になって考えられるような今後の展望があったら嬉しいなという期待の意味で聞きました。

○事務局(桑田)

貴重なご意見ありがとうございます。

今すぐにというわけではないのですが、まさに今後、県の方で宿泊税の導入がございします。そこには要件がございまして、新規事業とか、既存の事業でも、新規性のある拡充事業とかっていうところもありますが、そういったご意見を含めながら、こちらでまた調査研究しながら、補助金とかに活用できるように考えていければ良いかなと考えておりますので、またよろしくお願いいたします。

○五十嵐委員

観光庁の支援事業の木更津版ってことですよね。宿泊税の導入にも期待がかかるころですね。ありがとうございます。他にございますか。

○沼野委員

日東交通の沼野と申します。

今回のたくさんの個人的には読み切れないぐらいの資料をいただきましてありがと

うございます。

やはりどうしても、バス会社に浸かっているものですから、指標とか見る観点で非常に弱くて、先日もバレンタインデーの2月14日に、県観光物産課で主催した観光マーケティングセミナーに行って参りまして、今日この会議のために参加してきましたのですが、今日そのときの先生がいらっしゃるので、非常にびっくりしてしまったところでございます。

資料については本当に私の方でどうこう言う、まだそこまでのじゃないのですが、ただ市のホームページで、10月15日開催の議事録というのがありましたので、見た中で私のレベルではハッとした記載が委員の方からの意見であって、それにはシビックプライドという言葉があり、初めて聞いたのですが、やはり、こういう計画を立てて進めていく中では、市民をはじめ、うちで言えば、日東交通の運転手、それから回数券とか売っている駅のそばにある窓口の働いている方とか、事務者もそうですけれども、みんなこういう取り組みをしているっていうことを知らないで、ずっときているのかなというのに気づきました。

そう言われてみると、私も10年ぐらい鴨川の日東にいたときがありまして、鴨川の駅前ではわかしお号って特急が着くと、頻繁にどこかおいしいところありませんか、海産物でおいしいところありませんかと聞かれる。その時に、満足するような答えをしていなかったとまず反省していました。同時に、もっと昔の話で恐縮ですけど、その昔まだ私が20代の若かりし頃、木更津そごうデパートの1階に、日東交通の旅行カウンターがあったときがあって、その時はJTBさんの端末を入れてですね、提携販売千葉支店さんからすごくお世話になりながら、やはり旅行の申し込みとあわせて、今木更津着いたのだけとおいしいところありますかと聞かれるが、本当に苦情来るような回答を私も含めてしていたってこともあって、今回の素案を読んだ中では、いっせんぼくとか盤洲干潟など、綺麗な写真があることで、やはり市民も本当に自慢のものという認知というか、そういう必要があるのかなと考えていますので、せっかく会議に出させていただいているので、地元バス屋として、市と一緒に進めていきたいと思っています。

おかげさまで、令和9年の3月には、日東交通とバス事業もちょうど100年を迎えま

して、自分的にも随分長くやってきたなと思っています。

今会社の方も、名前はカッコいいのですが、戦略何とか室というものを作って、今1人の専務が担当、それともう1人、インバウンド経験のある方の入社が決まっています、まさに、もう1つよくアカデミアパークで、コンベンションとか学会がありますというときに、中日にバスツアーとか企画したいと思うのですが、とても見積もりを待たせてしまいますし、木更津でいいところと言っても非常に悩んでしまうっていうのもあって、また余談ですけども、こういうのを進めていく中で、どこかでこの地域のバスを走らせるのか、本当に関わりそうな人、うちの社長とか乗っても意味ないと思います。やっぱり現場でいろんな問い合わせを受けるような、例えばホテルで言えば、フロントにいる方とか、タクシー会社で言えば、配車とか送車とか担当する方、そういう方が乗って地域をじっくり回ってみて、いっせんぼくどうなっているのか自分も知りませんし、盤洲干潟に行きたいという方が来たときに、どこにバス停めて、トイレがあるのだろうかとか、それに合わせてお昼ご飯のことも聞かれるんじゃないかというのもあるので、せっかく関わることになりましたので、私もバス会社の中でも責任を持って、市が活性化することに協力したいと思っていますので、ひとつよろしく願いいたします。

○五十嵐委員

沼野委員ありがとうございました。

事務局の方からは何かございますか。

○事務局(桑田)

まさにDMOが、いろいろな地域の資源、事業者を繋いで、木更津市の観光資源を活かしてやっていければと考えておりますので、ぜひ木更津DMOを有効活用していただければいいかなと考えております。

また引き続きよろしく願いいたします。

○五十嵐委員

ありがとうございます。

沼野委員のお話を聞いて、私まちづくりの授業の中で、熱海の奇跡っていう本を題材に使っているのですが、その中で著者が、熱海の奇跡を起こすに至る一番最初の入口が、タクシー乗ったときにどこかいいところありませんかって熱海の運転手さんに聞いたら、いやこんなところ何もないよというように、乗るタクシーみんなそうおっしゃるっていう中に、ここに一番の問題があるって一念発起したというところからストーリーが始まるという。そのことを学生に話すとき、いつもきっかけというものは、やっぱり市民がいかに関心を持って自分の町に誇りを持つとか、いかに関心を持って自分の町を知っているとか、あるいは進めたいと思うとか、そういうことに根差すというところがまちづくりの原点だったりもするというところをつらつらと思い浮かべながら、非常に思慮深いアドバイスだったなと感じた次第です。

そういう意味では、さっきのガイドの養成はもちろんですけれども、一方では市民一人ひとりの一般レベルで、色々なところを知って人に勧めたくなる気持ちになるというのも、すごく大事な取り組みなのかなと改めて感じた次第です。

他にご意見、質問いかがでしょうか。

○神谷委員

観光協会の一事業としてDMO をやらせていただいております。

いろいろこの計画の方にもDMOが出ておりますので、しっかり来年度もやっていかなければと確認したところなのですが、やはりオーガニックシティという木更津の大きな看板が上がっている中での観光協会DMOになりますので、それが着実にその方向に、ベースが進みつつある状況にはなっているなというのを実感していますが、まだまだ足りない部分があり、事務的だったり人手だったり、できていない部分もありますけれども、方向性としては、着実にそちらに向かってやっていく。また、観光振興課と一緒にやっていかなければというふうに関心を持って思ったところでした。

沼野さんのお話を聞きましたけど、たまたま本当に今日あった話で、観光案内所にお

しかりの問い合わせがあったということで、まち歩きガイドをお願いしたいっていう電話が入って、長く観光案内所で働いている方が、それは紹介できないって言ったということで、それが観光振興課回りで私宛に電話がありまして、そんなはずないよ、みち案内人さん紹介すればいいのだからということで、私が直接、みち案内人さんをご紹介できますよと、すぐ折り返し電話をしたら、そんな人は紹介できないっていうふうに言われたというお話がありました。今日案内所に入っている方に確認したら、その人はガイドツアーを頼みたいと言ったのだけど、そんなことできないよと言われた、なんか変なこと言う人だねって言うのです。本当はみち案内人さんと言えば、その人もみち案内人さんを紹介したのだけど、自分の中でそれがピンとこなかったらしくて、何か勝手な人だねと私に言ってきて、あなたは仕事としてそこにいて、木更津の案内をするべき、いろいろ提案をするべきだから聞き取ろうとしてくださいと、この会議に来る10分前ぐらいに雷を落としてきました。

聞く側というかその受ける側がどれだけ木更津のことを提案できるかっていうのは本当に大事なことで、また他に何人かいらっしゃる観光案内所の方でも、私たちからすると木更津駅周辺って全然喫茶店とかお店がなくて、観光案内所に来られた方に、なかなかおいしい店を紹介するのって、少し引きながら紹介する部分があるのですが、その方は、たくさんあるけどどこがいいですか、と本当に言ってくださっていて、一番いいのはここですよ、みたいな感じでいっぱいあるかのように話をしてくれるのです。

そうすると、初めて来た観光客の方は、木更津にはいっぱいあるのだなと。その提案の仕方で全然印象が違ふということを実感してしまして、先ほどのシビックプライドの話もありますけど、もうこちら側の気持ち1つで、全然受ける側の印象って全然違ふ。自分も観光客として行ったら多分そうだなというのをすごく思うのです。

だからそのやっぱりソフト部分の、ハードも大事なのですが、ソフト部分のこちら側の気持ちの受けとめ方が、観光の世界って直で結構伝わるのではないかなと今感じています。

観光協会もDMOもそうなのですが、観光協会の仕事って木更津のいいところを紹介するのですが、いいところ発見する人間がまず、いいところだと感じてやらなければ

いけませんので、本当に1つずつ見ていくと、いい人、いい場所がたくさんあるので、それを積極的に発信できるように、DMOを含めて観光協会は改めてやっていきたいと感じて、この計画が進むための下支えをできるように、来年度からもやっていきたいと思っています。

○五十嵐委員

神谷委員ありがとうございました。

葛委員なにか意見はありますでしょうか。

○葛委員

前任の村上から変わりました、本日から葛の方が参加させていただきたいと思います。ご存じだと思いますが、私ども財団法人千葉国際コンベンションビューローの役割としては千葉県全域のMICEの振興を図るということでやらせていただいています。

特に木更津市さんに関しましては国際会議観光都市ということで、千葉県4つの観光都市が、千葉市、成田市、木更津市、浦安市ということで MICE の振興を行っているわけですが、木更津さんに関しましては、財団の方にも以前は職員を派遣していただいたということで、非常に深い関わりを持ってやらせていただいております。

その中で私個人のこと言いますと1991年にビューローに入りまして早34年、このMICE業界におりますので、少しでも木更津さんのMICE観光振興につきまして、ご協力できたらと思っておりますのでよろしくお願いします。

本題ですけれども、今回の資料大変だったと思います。本当に事務局の皆様お疲れ様でした。ありがとうございます。

これを作って、これから実際に活動していくわけですが、私どもの方のMICEの誘致ということで、いろんなこと書かれていてありがとうございます。その中で、もう少し具体的なMICE誘致のターゲット設定をしていったらいいのではないかと。これは、こちらの木更津市さんだけでなく、私どもコンベンションビューローもどこにターゲットを絞っていくのか課題になっています。特に、国際会議観光都市が4つありますので、

それぞれの都市の特徴を生かして、或いは千葉県全域の特徴をプラスした加味したような形での、ターゲット設定をしていかなければいけないというのは本当に大きな課題になっております。日々設定を考えながら色々な誘致を行っておりますが、この中で1つ書かれているのがサステナブル関係のMICE誘致をやっていこうというようなことが記述されております。

一方で、かずさアカデミアパーク、DNA研究所という非常に大きな施設があります。こちらの先生方に実際に国際会議を開いていただいておりますので、やはりここは原点である、かずさアカデミアパークあるいはDNA研究所を活用した、ライフサイエンス分野の国際会議の誘致ということも1つ謳っていけばいいのではないかとすることは常日頃から考えております。

あとはこの木更津という、立地の関係で東京湾を望む施設での、ウェルネスMICEとか健康志向に合わせて、今いろいろと叫ばれておりますので、今後また検討していただけるとありがたいなと思っております。

それから質問になりますが、45ページのところに記載されています補助金の関係です。こちらにグリーンMICE補助などという、具体的な補助金の記述が書かれているのですが、ご存じの通り千葉県で国際会議誘致の補助金制度がございます。

そちらの補助金制度の特徴としては、2つありまして、1つは県が単独で国際会議を誘致する際に補助金を出すというもの。

それとあわせまして千葉県だけの制度になりますが、協調補助という制度がございます。地元の市で補助金を出した場合に千葉県がそれに対して同等の金額を補助するという制度がございます。

これは、このグリーンMICE補助を作るにあたっては、そこら辺の県の協調補助というのも活用するというような検討されているのかどうか。

もし、あるようであれば誘致にあたって強みになりますので、せっかく県の協調補助が使えますから、うまく組み合わせるような仕組みづくりをしていただけるとありがたいです。

それから修正に関しまして細かいことすみません。

3 ページの施策の25-3です。

先ほど、こちらのいただいた資料で修正してありますということなのですが、具体的に言いますと、2つ目の黒ポチの国際会議等が開催される際にはコンベンション施設や宿泊施設と連携してありますが、私の方で観光施設も入れたらいかがでしょうかということで第3回の委員会で意見させていただいたのですが、それについては修正が入ってなかったので、もう一度確認していただいて修正をお願いできたらと思います。

特に意図としてはいろいろなところで、今言われていますけれども、来ていただいて、やはり誘致だけではなくて地元にお金を落としていただくという大きな観点、経済波及の観点ですね。それには、やはり地元の観光施設というのは重要になってきますので、コンベンション施設という言葉に含まれるのではなくて、あえて、宿泊施設と観光施設というふうに明記したほうがよろしいのではないかと思います、意見させていただいております。

○五十嵐委員

葛委員ありがとうございました。

事務局の方から、今の質問に対していかがでしょうか。

○事務局(前田)

貴重なご意見ありがとうございました。

最初に修正の部分のお話なのですが、意見及び対応の表のところに修正しましたと記載してしまっているのですが、こちらの3ページの施策25-3国際会議等のMICE誘致という記載については、上位計画である木更津市第3次基本計画の文言をそのまま引用してきているところとなりますので、修正ができないというか、表記はこのままという形になってしまいます。表の方が間違いでしたので、申し訳ありませんがこのまま掲載させていただきます。

45ページ、MICE誘致に係る補助制度の導入についての部分で、千葉県との協調補助のお話があったと思うのですが、こちらの補助制度の導入というのが、先ほど少し説

明をさせていただいたかと思いますが、県の宿泊税の交付金を財源として活用しようと考えておりました、県宿泊税の交付金の制度的に、補助制度との両立が難しいのではないかと想定していますので、もしそうなった場合は単独での事業という形になるかなという想定であります。

○五十嵐委員

本日ご出席の委員の方々皆様にご意見、ご質問いただいたかと思いますが、他にございますか。

最後に私も意見を述べさせていただいてもよろしいでしょうか。

非常に重厚な計画と、またこれまでの各委員会での私どもの意見を、様々にご議論いただいた上で、修正をかけていただくなどしてご苦勞をおかけしたと思いますが、ありがとうございました。お疲れ様でした。

私の方からは、資料2の方で、全体に関わる意見の一番上のところ(4)の広域連携、こちらの方をご提案申し上げたのは私かなと思うのですが、旗振りしていくことのハードルが高いというご意見いただいていますので、これをもって、内容を修正して欲しいということではもちろんないんですが、やっぱり木更津市の役割というのは、木更津市の中にあるコンテンツや観光資源自体が交流人口の目的となるということは、重々承知しておりますが、一方でこの壮大な、千葉県房総エリアのゲートウェイとしての機能というのがものすごく重要な都市である、地域であるというのは皆様もご理解されていることかと思えます。

特にインバウンドは、かつて観光立国を小泉総理が宣言された2003年は、各県が自分たちの町を競って、世界のいろんな展示会に出ていっても、そこってどこ状態で、海外の方には全く伝わらないという実態をどうやって効率的、合理的にブランディングしていくかというのを、日本も相当模索してきた十数年送ってきているかと思うんですが、その中で、やはり木更津というところだけでブランディングしていくことはもったいないというのが、改めての私の感覚です。

日本中でも、DMOとして成功しているところというのはそんなに多くはないと思う

のですけれども、例えば、せとうち観光推進機構は、その瀬戸内という瀬戸内海に面したすべての県が一体化して、ブランディング戦略だったり情報発信だったりということによって、トータルで売り込んで、ここに来たお客様を別の地域に連れていくみたいなことも含めてやっているということでは、私は袖ヶ浦の森の牧場オートキャンプ場を非常にリピートしているのですけれども、必ず帰りはうまいたの里に寄って、食べて買って帰るというその流れも含めて、うまいこと他の観光資源を活用して消費額の増加というのも、今後の見通しとしては、連携していく中でお互いにウインウインになる形を作っていただけと、方向性としては間違わないのかなと思っております。一応最後に私の意見として、コメントさせていただければと思います。

他にございますか。

ではこちらで質疑を終了とさせていただきます。

本委員会の担当事務として、木更津市観光振興計画の策定及び推進について審議し、必要な事項を市長に答申し、または建議することとなっているため、改めて確認させていただきたいと思いますが、本委員会ではこの素案を承認するということでよろしいでしょうか。

○全委員

異議なし。

○五十嵐委員

では異議なしということの声もございましたので、以上で本日予定されました議題が終了いたしましたので、議長の任を解かせていただきたいと思います。

円滑な議事進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

○事務局(桑田)

五十嵐委員長、議事進行ありがとうございました。

それでは、次第3 その他に移ります。

事務局より、今後のスケジュールをご説明させていただきます。

○事務局(齋藤)

観光振興課の齋藤です。

今後のスケジュールにつきましてご説明いたします。

資料4をご覧ください。

来週25日に、庁内最高決定機関である総合政策会議において、承認いただきました素案を提出いたします。

その後は、3月議会において素案について説明を行い、3月22日よりパブリックコメントを開始いたします。

そこで、意見が出なかった場合や、文言など軽微な修正のみの場合は、直ちに計画の完成・公表を行う予定です。

パブリックコメント等により重要な修正が生じた場合は、5月23日に第5回目の観光振興計画推進委員会を開催させていただき、委員の皆様に変更して素案のご審議をいただいた上で、6月議会にて説明後、公表する予定です。

続いて資料5をご覧ください。

本計画ではアクションプランは作成しませんが、ご承認いただいた計画案の取り組みについて、それぞれの現状と目標、取組内容を記載したシートを作成いたします。

委員の皆様には、計画の進行管理として、毎年度1回、委員会にご出席いただき、ご意見等をお伺いさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

こちらの施策推進シートは取組毎に作成いたしますので、令和7年度の内容を反映させたものについては、年度開始後早い時期に委員の皆様へ確認をしていただく予定です。

確認の方法につきましては、ご審議いただくか、報告の形をとるか事務局の方で検討させていただきます。

○事務局(桑田)

今の説明について質問等はございますでしょうか。

以上をもちまして、第4回木更津市観光振興計画推進委員会を終了といたします。

ありがとうございました。

上記会議録を証するため下記署名する。

令和7年3月17日

木更津市観光振興計画推進委員会委員長 五十嵐 潤子

